

会議録

1 会議名

令和3年度 第2回 上越市博物館協議会

2 議題

(1) 歴史博物館事業報告

①令和4年度の事業計画について（公開）

②スキー資料整理事業について（公開）

(2) 水族博物館事業報告

①令和4年度の事業計画について（公開）

3 会議方法

文書資料の送付と意見書の提出による書面会議

※新型コロナウイルス対策のため

4 開催日時

令和4年3月29日（火）

※意見書の提出期限日を以て会議の成立とする

5 意見書を提出した委員

歴史博物館部会：斎藤良人・清沢總・浅倉有子・増田小夜子

水族博物館部会：大山賢一・山下優子・関谷伸一・渡邊憲一・岩井文弘

6 意見書の内容

【歴史博物館部会】

令和4年度の事業計画について（公開）

《清沢副部長》

- ・「御所参内・聚楽第行幸図屏風」は、3年ぶりの公開で楽しみである。前回とは展示場所や展示方法でどのような工夫をするか。昨年の「永青文庫所蔵 近代日本画名品展」の会場の照明のよさとともに、椅子が設置され、ゆっくり落ち着いて味わえたとなかなか好評でした。それとほぼ同時期の「上越のみほとけ

—「越後の都」の祈り—」の方では、照明をもう少し上げて欲しいとの声を聴いた。照明については難しい面もあると思うが、配慮できるか。今回の御所参内・聚楽第行幸図屏風の解説は、いままでと異なる点があるか。

- ・「森成麟造—上越考古学の先覚者—」について、明治 17 年の誕生から昭和 30 年の逝去まで 71 年間の生涯のなかで、日本の歴史の流れのどのような時期にどのようなことをされたか、対比して森成の活動を見られるように示してほしい。またなぜ今森成なのかをコメントしていただければと思う。
- ・「文化財指定 日本スキーの黎明」について、黎明期の日本スキー界をけん引した上越の役割を紹介するとあるが、「上越」とは上越地方、現在の上越市、上越の中の高田などのどれを指すか。
- ・「探検！むかしのくらし」について、民俗資料を展示する時、それと対比できる現在の物を並列すると、小学 3 年生の面白い声を聴くことができます。違いが分かりやすいようですね。（もちろん、昭和初期から昭和 40 年代までの物で対比できない物も多いですが）
- ・調査研究事業について、令和 5 年度企画展予定が「頸城油田の盛衰（仮称）」と「高田盲学校展（仮称）」とありますが、その理由を聞きたい。

《斎藤委員》

- ・展覧会事業について、今年は開催される観桜会に合わせて「逸品展示」の“御所参内・聚楽第行幸図屏風”展が開催される。3 年ぶりの地元公開とのことであるが、目標入館者数が他の企画展に比して目標計数が段違いに多い。過去に行った展示の実績を踏まえての目標と思われるが、コロナ禍がまだまだ鎮静化していない情勢であるのでタイムリーで頻度が高い広報が肝要と思う。全県、近県からの入館者で館が賑わうことを期待したい。
- ・スキー資料整理事業について、平成 28 年度に歴史博物館に移管された日本のスキー黎明期における資料群について、その整理事業の取り組み、資料価値の再評価を行う調査研究が継続的に実施されるとのことである。まず以て、この事

業を企画した関係者とその予算化を認可した市当局に敬意を表したい。前所蔵館には約 4500 点もの資料があり、保存管理状況が今一步との状況である。令和 3 年度の市文化財指定を契機として、これらの資料整備が将来の「展示」に向けて着実に進展することを願っている。多大な経費と時間を要することから具体的なアクションプランが策定されて、進行管理がなされることを期待する。

《浅倉委員》

- ・「逸品展示」「企画展Ⅰ」「企画展Ⅱ」は非常に興味深いもので楽しみです。学生等を連れて行きたい。
- ・スキー資料の全体像把握は必須である。「目録・研究」の刊行を楽しみにしている。展示替え、収蔵スペースの問題も解決すべき大切な課題だと考える。「見せる収蔵展示」は良いアイデアである。
- ・岡沢の一般公開について、回数が増えてよかったと思う。
- ・ZOOM 等による会議を企画してもらえないか。

《増田委員》

- ・「逸品展示 御所参内・聚楽第行幸図屏風」について、当時の華やかな参内の行列を金泥をふんだんに用いて豪華に描写した屏風の公開は、観桜会の期間とも呼応し、タイムリーで見応えのある展示だと思う。上越市が誇る宝であり、この展示が歴史への興味が広がるきっかけになることを期待したい。
- ・「企画展Ⅰ 森成麟造展」について、私たちが暮らす町に、歴史的にどんな先人がいたのか、どんな偉業を成したのかを知るよい機会である。

漱石の主治医としてよく知られている森成麟造氏だが、上越市にとって医業以外にどんな存在だったのかはほとんど知られていない。今回の企画によって、考古学や音楽など幅広い分野で足跡を残したことが紹介されるという。私事だが、私の祖父はほぼ同時代の高田で、しかも近い場所で開業し、同じ句会に属していたので、その意味でも興味深い。また、森成氏の活動を通して、明治、

大正の文化都市高田の姿を垣間見ることも大いに楽しみである。

- ・「企画展Ⅱ 日本スキーの黎明」について、金谷山にある日本スキー発祥記念館は、スキーというよりレルヒ記念館という意味合いが強く、私にとっては満足のいくものではなかった。レルヒさんの執務室のようなスペースがあったが、あの展示はあまり必要性を感じなかった。また各時代のスキー道具の展示もただ並べてある感が強かった。

今回、所蔵資料の掘り起こしや新事実を発見しながら、日本スキー界をけん引した高田をより強く、鮮明に、そしてより楽しくアピールすることを期待する。スキー人口が下降しつつある今だからこそ、スキーの歴史やスキー技術、道具の変遷を記録にとどめることに大きな意義があると思う。

- ・前年度の企画に対する感想として、「上越のみほとけ展」は平日にもかかわらず入館者が多く、一像ずつ熱心に鑑賞している姿が印象的だった。知人の中には3回訪れた人もおり、上越市にこれほど歴史的に価値のある仏像があるという新たな発見と誇りを感じた。新聞での紹介や記念講演会での解説など、告知も効果的だったと思う。

【水族博物館部会】

令和4年度の事業計画について（公開）

《関谷副委員長》

- ・バックヤードツアーやガイドツアーの再開を願っている。
- ・リモートバックヤードツアーがうまく行くことを期待する。
- ・通路に設置されているソファでくつろいでいる人たちを見かける。見学者は休憩も兼ね、水中を遊泳する生き物に癒される時間でもあるので、フレンドプールやイルカホール、あるいは通路の一部にでも増設をお願いしたい。
- ・「展示解説板増設」が計画にあるようだが、ぜひ実現してほしい。展示生物の写真場所、興味深い習性や生態について、パネル・冊子、可能であれば音声ガイドなどによる簡単な解説をお願いしたい。眺めていると、いろいろ知りたく

なる。

- ・来館者に対して、職員の皆さんから展示生物の説明・解説をしてもらえるのが最高だが、忙しいことと思われるので、解説ボランティアを募集したらどうか。
- ・前回、山下委員から提案のあった「〇〇〇がたり」シリーズ案、大変ユニークで興味深いと思うがどうか。
- ・レストランの位置が孤立してしまっている、見学の疲れを癒す場として利用促進を図るパンフや掲示などを増やしたらどうか。うみがたりオリジナルメニューがあれば、レストランのみのお客さんも期待できるだろう。
- ・広報誌「うみがたり」楽しみである。引き続き充実と拡大をお願いする。
- ・コロナ禍での限定イベント「大人のおひとりさま」に参加した。夜の水族館の良さを感じた。静かに、ゆっくり、じっくりといったニーズが多いことを改めて知った。ペンギンの知らない世界の解説も大変良かったと思います。来館者は「知りたい」「知って満足」だと思う。多様なイベントを今後も期待している。

《大山委員》

- ・日頃から、少ないスタッフが連携・協働してすばらしい水族博物館運営をしていることに、心より敬意を表す。櫻館長を中心にチームワークよく、健康に気を付け、楽しみながらお仕事を続けていただきたいと願っている。さらに充実したよりよい水族博物館を目指して、気付いたことを次に記す。

〈全体を通して〉

- ・昨年8月に示された次年度事業計画に比べて、内容構成が異なり、整合性や工夫・改善したところがわかりにくい。見出しの項目を同じくするとともに、新規事業を【新】、工夫や改善をした事業を【改】などと、印をつけるとより分かりやすいのではないか。
- ・次年度の目標（表現としては重点目標、営業目標などでもよい）を具体的に示すとよい。8月の事業計画では、p.13「2 展示の充実 (1)展示の質の向上」が、

目標のように思いました。また、今月いただいた計画 p.2「2 展示計画」の下の2行は、展示の質の向上を加えると、令和4年度の目標にも見える。年度の目標を具体的に示しておく、各事業が目標とどうつながっているのかがよくわかり、職員も目標を意識して活動していく。また、年度末の評価や次年度の目標及び事業計画の設定においても、目標や事業計画の達成状況を総合的に判断し、改善策を具体的に導き出しやすくなるを考える。

- ・計画なので、事業の説明に終始しないで、具体的に示すとよい。例えば、p.2の「(1)魚類」や「(2)海獣類」では、取組の方向はわかるが、具体的な様子が見えない。「(3)マゼランペンギン」では、いつ、どのようなペンギンの行動を見てもらうようにするのかわからない。P.6の「4 調査研究」では、昨年8月の資料の方が、深海性魚類ではボウズイカ、マンボウでは他の大型魚やクラゲ類も示されていました。いずれの研究も帰納法による追究に見えますが、研究課題とそれにせまる研究方法等を具体的に示すとよいと思う。「(2)繁殖」では、飼育の配慮事項についての説明に見える。研究の視点から述べるとよい。また、各種魚類では、アカヒレタビラ、シナイモツゴが示されていたが、これらが無いのは、どうしてか不明である。

〈個別に気付いたこと〉

- ・8月に次年度の事業計画について意見を求めていたが、年度末になって再び意見を求める意図がわからない。すでに3月議会に予算書が提出され、審議している段階にあつて、私たち委員が提案できることは限られる。事業計画の概要を丸投げするのではなく、次年度の事業の中で議論したいことや意見を聞きたいことにしぼって具体的に提示し、みんなで協議するようにしてほしい。
- ・p.1の1 (2)の臨時休館は、令和3年度のことなので、不要だと思った。
- ・p.3「(1)一般対象(個人)」にある「参加型体験プログラム」にある「学校長期休暇期間」(他のページにもあり)を「学校の長期休業」とするとよい。
- ・p.5の「職業体験学習」「職業インタビュー」で、「進路指導」とあるが、子どもの生き方・在り方にかかわることから「キャリア教育」とするとよい。

- ・ p. 7 の「5 情報発信」に示した SNS は、とても有効だと思う。4 つ取り上げていましたが、YouTube も取り上げられるとよいでしょう。今は、SNS で検索している人がとても多いので、「#上越」で検索すると「うみがたり」が出てくるようにするとよい。また、出勤して、館内の異常の有無を確認して回っているときに気付いた動物の姿などを動画で撮り、「今日のうみがたり」などとタイトルを付けて毎日 15 秒から 30 秒でよいので、紹介するとよい。さらに、参加型の発信として、「みんなのうみがたり」「見て！うみがたり」などとタイトルを付けて、送られてきた来館者の撮った写真と一言（なくても可）を掲載するとよい。

《山下委員》

- ・ 計画全体について

「見て 聞いて 触れて 体験して」を考慮した内容及びコロナ禍に対応した取組が組み込まれており、全体の方向性として、よいと思う。令和 4 年度も、着実かつ臨機応変な運営が求められると思うが、創造的な取組を以て、存在意義を高めていってほしい。具体的内容については、第 1 回書面会議の議事録に各委員から様々な提言・提案がなされているので、参考にしながら具現化し、魅力ある水族博物館として一層充実させていってほしい。

- ・ 展示計画について

「開館 5 年目」とある。特別展や企画展の場を開館 5 年目を銘打って、情報発信・集客につなげたい。水族館独自の取組だけでなく、地域や高校等との連携を深めた取組も考えられると思う。楽しみを増やしたい。

（例：開館 5 年目 うみがたりへ GO！ 特別展（企画展）～〇〇〇～）

- ・ 教育普及事業について

コロナ禍にあって、柔軟かつ適切な対応が求められるが、各種プログラムの実施に取り組んでほしい。特に、リモートの導入に関しては、成果と課題を集積するとともに、随時改善・工夫しながら進めてほしい。コロナ禍収束後の展望

を見通し、リモートならではの成果が次につながるよう、期待したい。

(例:海岸清掃を設定しての環境学習:オープン参加に加え、町内会や企業、団体等のクリーン作戦との連携を含めることで、啓発活動の充実が図られるのではないか。)

(例:学校団体対象:バックヤードツアー・館内ガイドツアーの定員について→学級単位で利用できるよう、最大児童生徒数40人を考慮し、10人まで×4もしくは10人程度×3と、周知及び対応してはどうか。)

- ・調査研究について

調査研究の更なる深化・発展、専門性の向上を期待する。

サクラダンゴウオのブランド生物化が示されている。飼育、繁殖には高い専門性を要すると思うが、ブランドを核として、学術的な生態解明や、海洋環境問題への啓発、集客など、「売り」の波及マップが描ける。積極的な情報発信を望む。

- ・施設・設備の機能向上

展示解説板増設:何をどう盛り込むことがニーズに応えることになるか検討の上、より良いものにしてほしい。ついでに幼児や小学校低学年目線の掲示は、いかがか。小さい子どもの目線は低い。また、大水槽などは、へばりつくようにして見て様々な生態を興味深くインプットしているが、細かな展示ケースはささっと、という傾向もみられる。子ども目線の興味喚起策を。

(例:うみがたりはかせちゃんのワンポイント(仮称)楽しい掲示を10か所程度?はかせキャラクターの募集もいいかも。)

- ・その他

年間パスポートの利用状況は、どうか。学生は、結構利用しているようだ。年代や購入時期など、利用状況を把握して、特典内容や意見収集等に反映させ、魅力増強・啓発促進・集客等につなげたい。

- ・おまけ

駐車場係の方が温かかった! 超高齢の母のために借りた車いす。返却の時は、

係員が目にとめて車の所で引き取ってくれた。「また来ようと思わせる」来館者への目配り・気配り・明るい接遇、いいです！！

《渡邊委員》

・展示計画について

展示計画の目標として、展示内容の更なる魅力向上を図ることが掲げられている。魅力向上の中には、他の水族館とは異なる、唯一「うみがたり独自の展示」を展開することも含まれる。例えば、山形県鶴岡市立加茂水族館は、当初、小規模な地方の水族館で、長年にわたって経営難に苦しんだ経緯がある。一時は入館者数の減少によって存続の危機に陥ったが、クラゲ展示で種類数世界一の水族館となり、癒しを求める世情のニーズと合致したことも相まって、一躍、その名を全国に知られる存在となった。地味な生物であっても他の水族館にはない世界一の特色を持つことで、多くの人々の注目を集めることができる好事例といえる。あくまでも私見であるが、ウミウシの展示などは、海洋生物ファンの耳目を引くのではないだろうか。ウミウシは小型の軟体動物で巻貝の仲間であるが、国内だけでも1000種以上が各地の海に生息し、その美しさから海の宝石とも呼ばれる。そのゆったりとした動きが見る人の心を和ませる効果もあり、現在、展示中の勇壮な「舞翩シャイニイリュージョン」と対照的なパフォーマンスになると思われる。ただ、餌が不明のものや、調達が難しいものもあり、長期間の飼育が難しいとされている。繁殖や飼育方法についても研究が進んでいるとは言えないことから、いわゆる一種の飼育困難生物であるともいえる。それだけに、期間を限定して展示している水族館もあるが、専用の展示室があるのはかごしま水族館だけのようなのである。これまでもウミウシの展示は行われてきたと思うが、サクラダンゴウオとともに研究テーマとして取り上げてブランド生物化を目指し、ウミウシと言えば「うみがたり」と言われるようになれば、魅力向上にも大きく貢献すると思われる。多くの種類を収集・飼育するには、様々な課題があると思われるが、今度、検討していただければありがたい。

昨年、県立海洋高校にイトウの提供に関する依頼があったが、全長 1m と大型のものしかなく、水族館に適当な水槽が無いことから展示が実現しなかった。学校では、今年度も人工授精に取り組んでいるので、成功すれば稚魚提供の可能性があるとと思われる。その折には、是非、共同展示を実現して頂きたい。

・教育普及事業について

教育普及事業の環境学習プログラムの中に、SDGs の理解促進のために、周辺海岸の清掃や海岸ゴミに関するレクチャーを行うとある。「海を守る」という SDGs の目標を達成するうえで大変素晴らしい取り組みであると思われる。この他にも、多種多様な魚類を飼育している水族館ならではの取り組みとして、循環水槽で淡水魚と植物を育成するアクアポニックスを設置することにより、SDGs の目標として挙げられている「水資源の節約」や「環境負荷を抑えた食料の持続的生産」について、具体的に学習する場を設定できるのではないかとと思われる。小型水槽を用いれば、小中学校でも簡単にアクアポニックスの実験ができることから、講習会を開催して各学校での取り組みを推進することも可能である。是非、事業の一つとして検討してみてもはどうだろうか。

コロナ禍がなかなか収束する気配を見せず、水族館運営にも困難な面が多々あると思われるが、感染防止を図りながら全国から多くのファンが訪れる水族博物館を目指して頑張ってもらいたいと思う。

《岩井委員》

・各種展示・教育プログラムの計画、大変ご苦労されていると思う。現在は、コロナ感染症を意識せざるを得ないので、次の 2 点に留意いただきたい。

① 3 密をさける、マスクをする、手洗いをするのはもちろんのこと、適宜な換気

② バックヤードツアー、その説明、レクチャー等はリモートで

・海洋汚染が進んでいる。それが海の生物に悪影響を与え、ひいては人間の生活や命を脅かしている。この環境汚染の悪循環が一目で分かる展示をし、環境保

全を訴えて欲しいと思う。

- ・水生生物をただ観察するだけでなく、それらと触れ合うことが子どもたちにとって大切である。とりわけマゼランペンギンやイルカとの触れ合いは一生の思い出になり、また、集客に繋がる。
- ・職業体験から楽しかったこと辛かったこと、苦労したことを聞くことは水族博物館の仕事を理解する手助けになるだけでなく、子どもたちの将来の進路指導にも役立つ。

【会議のまとめ】

- ・意見集約の結果、両館の事業報告及び次年度事業計画について、了解を得られたものと考えます。個別の要望・疑義については個別に回答するものとします。

7 問合せ先

教育総務課 TEL : 025 - 545 - 9243
E-mail : ks-kikaku@city.joetsu.lg.jp

歴史博物館 TEL : 025 - 524 - 3120
E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

8 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。